

2-11

残存機能維持しながら快適な生活を送るための取り組み

快適性向上のためのシーティングアセスメント活用

快適性の追求

シーティングアセスメント

特別養護老人ホーム みずべの苑

介護職 住吉 正幸

東京都北区志茂 3-6-13

TEL : 03-3598-2111

E-mail Tokuyou@Ma.Kitanet.Ne.Jp

FAX : 03-3598-9903

URL <http://www.urara.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人うらがが母体であるみずべの苑は、平成 13 年 4 月に開設。50 床の特養、10 床のショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター、訪問介護、居宅介護支援事業所を併設する高齢者総合福祉施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 重度障害者がベッドから離れていかに快適に日中を過ごせるかはシーティング技術が重要な鍵になる。シーティングは障害者が椅子・車椅子や、車椅子上での姿勢の悪さによって生じる問題（すり落ちや傾きなどの悪い姿勢をとり、痛み、褥瘡、変形、拘縮、脱臼などが生じたり、飲み込みにくさ、食べにくさ、誤嚥、呼吸器系の疾患、痙性や高い筋緊張、多くの問題）に対し、個別に解決するため、座位姿勢の基本となる骨盤の傾きを改善することで、姿勢を改善し、安定性と快適性を提供する。このことによりさらに機能性の向上、変形や褥瘡の発生に対する予防を目指す。

〈具体的な取り組み〉

- 対象利用者及びご家族へ取り組み内容の説明
- 中心職員を設置、知識・技術の習得を中心的に行う。
- 外部講師による施設内部の研修を実施。
- シーティングが必要な御利用者を選定して、アセスメントを実施（座位能力分類にて明確化）
- 問題点の明確化に伴う検討
 - ・ 座位時間等の検討、車椅子の選定・調整。
 - ・ クッション等物品の必要可否を検討、及び選定。
 - ・ 物品がない場合の創意工夫。
- シーティングの実施
 - ・ 対象利用者及びご家族へ取り組み内容の説明
 - ・ シーティング試行を職員へ周知した。
 - ・ 経過を記録する。
 - ・ 記録から浮き上がる効果を分析した。
 - ・ 修正点の変更・改善を行う。
- 定期的な分析・評価、再試行
 - ・ 上記プロセスをくり返して内容の制度を高める。

〈活動の成果と評価〉

- 導入により、車椅子からのすり落ち・すり下がり、及び転倒などの自己・ヒヤリハットが軽減された。
- 適正なシーティングにより、褥瘡等の発生軽減がみられる。又、すでに褥瘡になられている方には治療的な役割を担う事が出来た。
- 適正な座位を保つ事により、御利用者の生活の改善が見られた。
 - ・ 活動時間の延長
 - ・ 座位時における動きの幅の拡充が図れ、アクティビティへの参加が可能。
 - ・ 食事摂取状態の改善が見られた。（食べこぼしの軽減や食事介助からの一部独立が図れた。又、誤嚥等の発生も軽減した。）
- 知識・技術の習得による職員の自己意識の向上。
- 創意工夫による、思考する事への意識向上。

〈今後の課題〉

- 備品と個人所有物の決まりを明示する。
- 中心職員が大部分を行なってしまうことによる、他職員の依存性の考慮。
- 後任者の育成。
- 現状に満足せず、より良い方法の模索。
- 職員への更なる周知徹底。